

令和2年
2月12日
水曜日開催

～進めたいけど壁がある地域づくりのための～

地域課題のワガコト化と 住民自治組織の変革の進め方

基調講演 地域課題をワガコト化したその後の住民自治組織の変革
里山くらしLABO(静岡市) 代表 池田水穂子氏

2015年設立。静岡市の中山間地域を中心に人口減少と高齢化に対応するコミュニティづくりのサポートを行う。第三者の視点で地域の課題を数値化・可視化。目的の再確認や、組織や活動、イベントの見直しなど、主に自治会を中心とする地域作りの当事者が時代の変化に対応できるしなやかな地域運営組織づくりを応援する。

静岡市開催の「地域デザインカレッジ2018・2019(調査・実践編)」専任講師や、地域活動の好事例発表会の企画運営を務め、自治会や地域づくりを担う住民を支え、静岡市内では地域活動の活性化が始まっており、全国的にも高い注目を集めている。「第8回地域再生大賞」特別賞を受賞。

【その他のプログラム】

- ・やまぐち県民活動支援センター 地域の課題ワガコト化についての説明
- ・山口県内のワガコト化の地域づくりの事例

※地域課題のワガコト化とは

市町より狭い範囲の地域の将来的な人口や構成の変化などを可視化。

将来的に地域で発生しうるであろう課題などを地域で共有。

活動や役を見直していくため、地域の役員や構成団体で目線合わせを行う。

時間 13時30分～16時30分

会場 周南市徳山駅前賑わい交流施設 交流室2
周南市御幸通2丁目28番2

対象

- ・行政職員(地域振興・自治会・地域づくり・中山間・地域福祉・社会教育等)
- ・地域づくりに関わるNPO
- ・住民自治組織の役員等

**参加費
無料**

(先着60名様)

お申込み・お問合せ

やまぐち県民活動支援センター

申し込みは裏面をご覧ください

TEL : 083-934-4666

MAIL : yamas@mbs.sphere.ne.jp

「コミュニティ学習会」お申込み用紙

申込用紙に必要事項を記入の上、FAX・郵送・申し込みフォーム、または申込用紙の項目をメールにてお知らせください。

メールの件名は「コミュニティ学習会参加申込」としてください。



FAX：083-934-4667

メール：yamas@mbs.sphere.ne.jp

申込締切：令和2年2月7日(金)まで 先着順

申込フォームはこちら

団体名	
担当者名	
住所	〒
電話番号	
FAX番号	
メール	

役職・担当業務	名前	ふりがな

*記載された個人情報は、適切に管理し、本研修の運営や、今後開催するセミナー等のご案内に利用させていただきます。

会場には無料駐車場はございません。有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。

お申込み・問い合わせ先

やまぐち県民活動支援センター

〒753-0064 山口県山口市神田町1-80防長青年館（パルトピアやまぐち）2階

TEL:083-934-4666

FAX:083-934-4667

メール：yamas@mbs.sphere.ne.jp

里山くらしLABO参考資料

第8回 地域再生大賞シンポジウム

<https://www.47news.jp/localnews/chiikisaisei/taisho/2017/syoho3.html>

池田水穂子・里山くらしLABO代表（静岡市）

活動は地味で小さい。私が子育て支援をなりわいとしており、もう一人、県職員で農業振興をしている河村将雄の2人で活動している、小さな団体だ。活動場所は静岡市の山奥、奥静という所だ。15年で3割も人口が減っている。20年前には150人いた小学生が28人と、人口減少の先進地。人口構成のピラミッドをみると、明らかに上が重たい。このままでは近い将来、住民の半分が65歳以上になるだけでなく、人口も減り続けて20年もすれば、半分になってしまうのではという予想がたてられている地域で活動をしている。

町内会や自治会とともに活動している。自費で活動しており、行政とは関係ない。私たちは、その地域に住んでおらず、縁もゆかりもないのに町内会に入らせてもらって活動している。そういった人たちの協力があって、やらせてもらっている。

なぜ、部外者の私たちがこんなことをしているのか。子育て支援を静岡市でやっていて、こういった里山に暮らすお母さんたちと出会った。驚いたのが、田舎は子育てしやすいだろうと思っていたが、実は、全く逆だった。中山間地こそ、子育ては孤立しやすい。人口減少が進んでいて、住民の数が少ない。まして、広い場所に少ないお母さんたちが分散しているので、出会う機会が少ない。なので、行政の支援も手薄だ。知り合う機会がなければ、（子どもが）生まれたという情報もなかなか届かない、バラバラな状況だった。最初に、そういったお母さんたちが集まれるサークルを立ち上げた。今では、50人ぐらいのお母さんたちがつながって活動している。

例えば、地元の自治会の後押しで、市へ陳情に行って、地域の協力を得て子どもが遊べるスペースをつくった。中山間地へお嫁に来たり移住したりすると、カルチャーショックを受ける。次に、移住してくるお母さんたちが暮らしやすい地域にするには、どうしたらいいかと考えた時に、みんなでガイドブックを作ればいいじゃないかということになり、この地域に暮らすお母さんのために作っている。そんなかきもあってか、グループは出産ラッシュだ。

河村は、人口減少が進む山間地で移住促進に取り組んでいる。あまりうまくいっていない地域があり、その原因を突き詰めた。空き家はたくさんある。ただ、移住者に貸してもらえないことが問題だと分かった。どうしようかという話になったときに、その地区に空き家が何軒あるのかを調べてみようということになった。住民の協力を得て全部調べたら、3割も空き家だった。これはまずいということになる。地域で空き家を活用して、移住を促進できる体制を整えようと乗り出した。住民の頑張りもあり、移住者に提供してもいいという方が出てきた。あっという間に移住者が来た。1年半で6家族20人が人口750人の地域にやって来た。数としては少なく感じるかと思うが、この地区の小学校の児童が4割増えた。地域にとっては、すごくうれしいことだった。

ただ、活動をしていて気づいた。母親がつながって子育ての孤立が解消しても、移住者が増えても、やはり人口減少と高齢化は進んでいく。となると、次に大切なのは何か。人口減少や高齢化が進んでも、住みやすい地域にするということではないか。暮らしに直結するところに働きかけることがいだろうと。その地域の地縁組織に踏み込んで、いろんな課題に向き合おうという活動を進めている。

では、どんな課題に対して働きかけているのか。町内会の活動が大変で、次にやってくれる人がいないという話が出ていた。では、負担はどれだけあるのかを調べた。みんなで活動の一覧を作った。数えてみると、人口1134人の地域で、44の団体や町内会があって、1年で903も活動していた。すごく一生懸命な地域だった。役職だけで316もあった。それは大変だ。どうしようかという話を自治組織とした。活動自体を検討する会を結成した。活動本来の目的を見直し、削減や合理化、最適化を検討してもらうようにした。その結果、いくつか削減された。

まず、よくあることだが、助成金で始めたけれど、助成金が終わったら地域の負担になってしまうイベントがある。これは町内会の仕事じゃない、受益者でやればいいのではと話をし、自治会の活動から外した。簡単そうに見えるが、自治会はなかなかこういうことを進められない。例えば、毎年、道路に「交通事故死者ゼロ」といったのぼりを立てていたが、人口が減ってくると、そんなゆとりはない。本当に安全に直結することをしようとみんなで考え、カーブミラーの清掃をすることになった。今では、そういう活動をしている。

人口減少や高齢化が進んでいる。では、どうしたらいいのか分からない地域は多いと思う。地域がどうしたらいいのかを知ろうと、アンケートをとった。普通のアンケートは1世帯1枚。そうすると、中山間地の場合、おじいちゃんが答えて終わりになってしまう。住民の半分は女性で、これからを担うのは10代、20代。中学生以上の女性も含めた全員に答えてもらおうというアンケートをした。90%も戻ってきて、住民のほぼ総意が分かる結果が出た。これについて住民に集まってもらい、報告会をした。全戸に配布する冊子もつくった。課題を共有していくことが大事だ。

このアンケートで、地域にさまざまな活動があるが、頑張った方がいい活動は何かを聞いた。上位は移動支援や耕作放棄地、子育てや高齢者の支援だった。このアンケートで大事なことは、人口が減っているから、足りている活動をやめていくことだ。その結果、高齢者や子どものイベントは十分やれているということだった。住民は分かっている。イベントよりも生活支援が必要なのだ。(これから重要なことは)にぎわいの創出ではないという声が多かった。

アンケートで一番関心が高かったのは移動支援だ。高齢者になると移動に困るためだ。日常的な移動手段は何かと聞くと、7割が自分の車で移動していた。年代別に分けると、70代は70%がそうだったが、80代では30%にまで落ちる。何が分かるかということ、80代になると移動に困る人が増えるということだ。移動を何とかしないとイケないという話が出ている。

事業継承がうまくいかないことも多い。助成金で始めた事業があったが、担い手を育てきれなかった。そこで若いお母さんたちに、やってみないかと声を掛けた。お母さんたちは時代の流れに乗ることが上手で、試行錯誤しながら少しずつ事業を拡大し、あちこちとコラボして盛り上げている。女性はコミュニケーション力が高いので、70人ほどいる生産者と地域を盛り上げていて、地域が明るくなる風が吹いている。

5世帯しかない地域がある。昔から人を呼び込むイベントに頑張っており、いい企画もあった。しかし、長年やると集客は苦勞する。手伝いをしたり企画をしたりして、地域の方が頑張ってくれるようになった。県外や首都圏から人が訪れてくれるようになった。

いろんな課題の解決をひたすらしているのが私たちの活動。その中で、一つ信じていることがあって、その地域を変えることができるのは住んでいる人だけということだ。人口減や高齢化が進んでいて、課題は山積みで切りがないのが現状だ。ここ何年も、コーディネーターやイノベーターといった人たちが地域に入って来ている。ただ、地域に深く入ってみると、人口減少が進んでいる地域に本当に足りないのは、そういう方たちではない。足りないのはプレイヤーだ。地域の方から教えてもらったが、その地域に踏み入って、一緒に課題を解決し、悩みながら進んでいくことが大事だと分かってきた。

すぐ役に立つのは部外者という立場だ。住んでいないので、言いたいことが言える。しかも、行政の人間でもないのだから、行政がなかなか言えない客観的事実も、グラフなどを使って住民に見せている。長い歴史がある町内会には、面倒なことになるからそのままにしようという体質があるが、小さなことでもいいので変えようとしていくと、何となく変わっていく。それを重ねていくと、地域のみんなが自分たちで考えて、少しずつリニューアルしていくことができるようになっていく。住民の頑張りを尊重しながら、地域をより暮らしやすくすることができるようになってほしいと伴走している。地味だが、今後もこの活動を続けて行けばいいなと思っている。

「政府は人材が足りないといい、「〇〇士」といった人を送り込む。しかし、いずれ帰ってしまうから地域で信用されない。池田さんたちも部外者だが、どう信頼を獲得したのか。

私たちも最初、いわれた。「どうせ、すぐ出て行っちゃおうよね」と。そこは会話していくほかはない。私たちは最後までやると言った。ただ、みなさんが頑張らないといけないということは何よりも伝えた。やはり、この人たちが何とかしてくれると思うと、私たちがいなくなった時点で終わってしまう。みなさんがやるんだと、ちゃんと伝えることも大事にしている。

募集要項

日時 2019年7月13日～12月21日の土曜日(全11回)

13時30分～16時30分(最終回のみ13:00～17:00予定)

主な会場 静岡市役所清水庁舎(静岡市清水区旭町6番8号)

対象 自治会、地区社協等の地域コミュニティ活動に関わっている、またはこれから関わる市内在住の18歳以上の方で、講座の8割以上に出席できる方

定員 20人(応募用紙による選考あり)

受講料 3,000円 ※納入後の返金はできません。ご了承ください。

ここポイント 本講座は「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の総合課程です。修了すると、「こ・こ・にポイント」が★★★(3ポイント)獲得できます。

応募方法

2019年6月24日(月)までに市HPの申込みフォームからお申込みください。

応募用紙を郵送またはFAXで送付、直接持参することも可能です。
(送付先は最下部をご覧ください)

静岡市HP ▶ [静岡市 地域デザインカレッジ2019](#)

選考結果 選考後、7月10日(水)頃までに結果通知を郵送いたします。

主な会場

静岡市役所清水庁舎

静岡市清水区旭町6番8号

電車: JR清水駅から徒歩約20分

または静岡鉄道新清水駅から徒歩約5分

バス: すぐてつジャストライン「清水区役所」下車

※駐車場については、他催事の開催状況により使用できない場合があります。あらかじめご了承ください。

※会場は変更となる場合があります(その際は別途ご案内します)



お問合せ・申込先

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡庁舎15階

静岡市生涯学習推進課

電話: 054-221-1207 FAX: 054-221-1758



静岡市



静岡市人材養成塾

地域デザインカレッジ2019

まちづくりを实践する

調査・実践編

20年後の未来のために 地域に必要とされていることを 本気で考える実践型講座



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



学びを通じたSDGsの推進

静岡市は、市民生活の質の向上と世界水準の都市を目指し、SDGsを推進しています。

「地域デザインカレッジ」はSDGs「目標17:パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指し、まちづくりを担う人材を養成しています。

※SDGsとは、国際連合が提唱した「地球上の誰ひとりとして取り残さない」の宣言のもとに、全ての国や地域が持続的に発展していくために決めた世界共通の17の目標のことです。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS
世界をよりよくする17の目標





学長からのメッセージ

田辺信宏 静岡市長

あなたは5年後10年後、どんなまちに住んでいたいと思いますか。私もあなたもこのまちの一員。住み続けたいまちにするために、静岡市には、未来と一緒に作る仲間が必要です。地域デザインカレッジ2019は、まちづくりへの第一歩。「みんなの力で創る、静岡。」の実現を目指し、共に学び、切磋琢磨していきましょう。

講師の紹介

里山くらしLABO

2015年設立。静岡市の中山間地域で人口減少に対応するコミュニティづくりを行う。「第8回地域再生大賞」において特別賞を受賞。2018年「地域デザインカレッジ2018(調査・実践編)」専任講師を務める。



川北 秀人
代表者兼ソシオ・マネジメント編集発行人

IIHOOE[人と組織と地球のための国際研究所] 京都大学卒業後、株リクルート、NGO代表等を経て、IIHOOE設立。NPO、市民団体、行政との協働の基盤づくりを進めている。2012～17年、「地域デザインカレッジ」コーディネーターを務めた。



カリキュラム【全11回(オリエンテーション+講座10回)】

日程	内容
オリエンテーション	学長講義(静岡市長 田辺信宏) 講師紹介(里山くらしLABO、川北秀人) キックオフ講義「地域に求められることに挑む」(川北秀人) ●進め方、スケジュールの説明
1 かぞえる	7月27日(土) 13:30～16:30 講義「数値から現状を把握する」(里山くらしLABO) ●目標設定、チーム編成
2	8月3日(土) 13:30～16:30 講義「現状を『見える化』する」(里山くらしLABO) ●地域の現状を把握
3 くらべる	8月17日(土) 13:30～16:30 講義「地域の現状を比べる」(里山くらしLABO) ●現状をもとに未来を予測
8月～9月 自主活動(地域調査)	
4	8月31日(土) 13:30～16:30 地域調査の結果発表① ●今後に向けてアドバイス(里山くらしLABO、川北秀人)
5 たずねる しらべる	9月21日(土) 13:30～16:30 地域調査の結果発表② 講義「解決への仕組みづくり」(里山くらしLABO) 自主活動(先行事例調査)
6	10月5日(土) 13:30～16:30 先行事例に学ぶ(市内先行事例団体、里山くらしLABO)
7	10月26日(土) 13:30～16:30 解決策の検討結果発表 ●今後に向けてアドバイス(里山くらしLABO、川北秀人)
8 つたえる	11月～12月 調査してきたことを各地域で報告
9	12月14日(土) 13:30～16:30 各地域での報告結果の共有 ●報告会のリハーサル(里山くらしLABO)
10 ふみだす	12月21日(土) 13:00～17:00 未来へ踏み出す報告会 ●公開報告会 ●講評(里山くらしLABO、川北秀人 ほか) ●修了式

修了後の目指す姿

喜らしやすく持続可能な地域づくりを担う人材となる

注意事項

- 開講日以外に、地域調査や課題解決を試行する「自主活動」があります。自主活動に当たっては、自治会等に協力をお願いする必要もあります。
- 各地域の課題や進捗状況などによってカリキュラムを一部変更する場合があります。

地域デザインカレッジ(調査・実践編)とは

- 自治会をはじめとする地域活動に本気で取り組みたい人が参加!
- 地域の課題を正確に把握し、有効な解決方法を考え、発表!

まちづくりについて実践的に学ぶ講座です。様々なデータを収集して見比べ、未来を予測します。そして、実際に地域に住む方々へのインタビューなどの調査をおおして、「何が問題になっているのか」「何が求められているのか」を確認します。最終回では、公開の場で有効と思われる対策を報告します。



これまでの修了生の中には、受講中に学んだことを活かして中山間地における住民の交通手段を確保するために自主運行バスを受託された方や、町内会長として地域防災の強化に取り組んでいる方などもあります。

昨年度の様子

■各チームの活動地区と取り組み

麻機	歩いて行けるところに居場所のある地域づくりをテーマに活動。地域住民へのヒアリングを行う。自宅を活用した「気軽に行けるコミュニティサロン」を提案。	児童に対する活動を自治会で行うことについて地域の協力を得るために活動。児童・保護者700人以上にアンケートを実施。子ども達に夢を与える地域づくりを提案。
庵原	住み慣れた庵原で安心して暮らせるまちづくりをテーマに活動。地区の高齢者300人以上にアンケートを行う。活動の振り返りや共有のための「活動振り返り表」を作成。	災害時にみんなで生き残ることのできるまちをテーマに活動。地域防災訓練における120人へのアンケートや、自主防災の関係者へ聞き取りを行う。災害時の心構えを確認。
長田西	高齢者の移動手段について考えるために活動。地域で既に取り組まれている高齢者の外出支援事業について関係者から聞き取りを行う。資源回収による資金の確保を提案。	組長活動の見直しにより、隣組がつかぬ地域をテーマに活動。評議員へのアンケートを実施。誰でもやりやすい組長活動を実現するため「組長の仕事」から「組の仕事」への転換を提案。
両河内	高齢化により手入れができていない農地が増えていることへの対策を検討するために活動。土地の所有者へヒアリング調査を行う。受講生が相談窓口や広報活動を行うことを提案。	町内会役員の輪番制を見直すことで、誰もが住みやすい町内をつくることをテーマに活動。町内会での話し合いを重ねる。「ビジョン志向型運営」等を提案。

■修了生の声

地域社会の現状を知ることができました。大変でしたが勉強になりました。

様々な人と出会い、多くの経験ができました。とても充実した時間が過ごせました。

70歳を過ぎて、ひとつの生きがいが見つけられた気がします。

受講生一人ひとりと触れれば触れるほど、そのお力に驚き引き込まれました。講義だけでなく、実際に自分たちで課題を進めていくスタイルはとても大変でしたが本当に勉強になりました。

